

市の重点項目	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
全職員や地域コミュニティとの協働による積極的な指導体制を確立し、「チームとしての学校」を実現する	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会における審議及び各専門部会の活動の推進により、学校支援ボランティア等、地域住民や保護者、関係機関の積極的な教育への参画を促す。 いじめに関するアンケートを定期的(年3回)にとり、その後に教育相談、いじめ防止対策推進会議を実施し、地域や保護者とも連携を図りながら、いじめ防止、発見時の初期対応に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会等を通して、地域や家庭の意見を反映しながら学校運営ができた。 10周年記念プロジェクトでは、地域団体や家庭の協力を得ながら、公園に壁画を描くことができた。 年3回のアンケート・教育相談・いじめ防止対策推進会議が実施され、いじめの早期発見・早期対応に努めることができた。 いじめ対策監を中心に、いじめを見逃さない日には、全校放送でいじめについて考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 10周年記念プロジェクト「公園に大きな絵を描こう」の取組では、子どもたちが主体となって活動する姿が多く見られてよかった。 見守り隊による継続的な活動は、児童の安全安心につながっている。 SNS等の普及により、いじめが把握できにくくなっているところもあるが、今後もいじめ対策監を中心にいじめの早期発見・早期対応に努めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 見守り隊等、学校支援ボランティアの増員が課題である。今後も募集を図りたい。 コロナ禍の下、放送及びフィジカルディスタンスを十分に保った読み聞かせのように、工夫した地域連携活動を行っていく。 今後も年3回のアンケート、教育相談等を実施し、いじめの早期発見・早期対応に努めていく。
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程を編成・実施・評価し、教育効果の最大化を図る	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間等において、地域の施設や人材を活用した教育活動を工夫する。また、地域や家庭への情報発信を継続し、学校の現状を理解してもらうよう努める。 アゴラルーム、ICT機器、デジタル教科書等を活用し、教育効果を高める授業づくりに努める。また、英語科の授業等において、学ぶ喜びを感じられる授業を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍のもと、感染予防を行いながら、地域人材や外部講師を招いて話を聞いたり、福祉体験を行ったりすることができた。 各学年において、地域と関わる学習を工夫することができた。 タブレット端末を使ったオンライン・ハイブリッド授業、eライブラリの学習等、ICT機器を効果的に活用することができた。 ALTとの連携により、楽しい英語の授業を目指した。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍だからといって行事を安易に中止するのではなく、できることを考え実践できたことがよかった。 児童は、教師やALTと一緒に楽しそうに英語の授業を受けてよかった。 教員の働き方改革を推進するためにも、今後もICT機器を効果的に使っていくしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりやHP等、今後も地域や家庭に情報発信を行い、コロナ禍の中でもできる連携・協働授業を行っていく。 タブレット端末を教師の指導の道具として、児童の学習の道具として活用できるように、効果的な活用の仕方を模索していく。 子ども参加型の活動を工夫し、聴く力や発表する力等も育てていく。
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、ソーシャルキャピタルを活用した学校づくりを推進する	<ul style="list-style-type: none"> 入学前や前年度の引き継ぎ内容等を生かし、保護者と連携しながら、継続的な支援を行うようにする。特別な支援が必要な児童や不登校児童等の支援を継続的にを行い、次年度への引き継ぎを確実に行うようにする。 中学校区の校長会、教頭会、教務主任会、生徒指導委員会等において情報交流し、校区にある学校が同じ方向で児童生徒を育てよう共通理解を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園・保育所・認定こども園等の訪問を行う中で、児童の様子や特性を把握し、支援にいかすことができた。また、幼児支援教室での引き継ぎ内容を担任に伝えることができた。 コロナ禍のため、直接的な情報交流は難しいが、電話連絡や中学校区のすぐメールを登録し合うことで、中学校区の現状をつかむことに努めた。また、中学校区で共通理解を図り、教育活動を進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も引き継ぎを大切にし、児童の支援にあたってほしい。保護者や関係機関、サポーターとの連携を密にし、支援にあたってほしい。 不登校児童に対する支援を今後も考えていってほしい。 今後も中学校区と連携を図りながら、教育活動を進めていってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児期の支援内容を引き継ぐとともに、必要に応じて個別の指導計画を作成する。医療、福祉関係機関とも連携を図りながら支援にあたるようにする。 エールぎふやフリースクール等とも連携を図り、不登校児童の支援にあたっていく。 岐阜中央中学校区の3校が連携を図りながら、共通理解のもと学校運営をしていく必要がある。
教育環境と学校財務環境を整備・管理し、有効に運用する	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備の定期的点検の結果に対し、適切な対処(修理・修繕等)を迅速に行い、安全な環境を整備する。 児童が集中できるようUD化を意識した教室環境や児童のよさ・頑張りを認める校内環境を整備する。また、児童作品などを定期的に入れ替えて「動きのある生きた掲示」にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 安全を第一に考え、危険箇所を発見したときには、校務員と連携を図り、迅速に対応した。学校で対応が難しい場合は、教育委員会に要望書を提出し、安全な環境に努めた。 シンプルで構造化された掲示をしたり、物の廃棄や整理をしたりすることができた。廊下等には、児童の平面作品が掲示され、良さや頑張りを広げることができた。児童の作品は、定期的に入れ替えを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の安全は第一である。今後も安全な環境で活動できるように、環境整備に努めてほしい。 教室の背面や廊下などに、児童の作品や活動の足跡が掲示されていてよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も毎月の安全点検を定期的に行い、児童が安全に活動できる場にしていく。危険箇所が見つかった場合は、迅速に対応する。 今後もUD(焦点化、視覚化、共有化)を推進し、教育環境の整備にあたるようにする。学習指導委員会を核に、UDの授業作り等を職員会で提案していくようにする。
災害や事故等、多種多様な非常事態に対する安全性の確保をする	<ul style="list-style-type: none"> 起こりうる多種多様な場面を想定した「命を守る訓練」を計画・実践し、自ら考え行動できる力を身に付けるようにする。 地域と協働し、災害・事故に対応する登下校の態勢を整備し、迅速に行動できる体制を整える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 地震や火災時の命を守る訓練を計画的に行うことができた。また、実際の場面を想定した予告なしの訓練を行うことができた。自家用車による引き取りがスムーズにできるようになってきた。 コロナ禍ではあったが、全職員で通学路の点検や子ども110ばんのいえへの挨拶を行い、安全な登下校に努めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な災害や事故の場面を想定した訓練を今後も継続していってほしい。 通学路の安全点検については、毎年確認できるとよい。地域やPTA、関係機関と連携して、危険箇所の点検が行えるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災について、地域と学校が連携して、地域防災の学習のあり方を模索していく。 児童が危険を予測したり、回避したりできる力を高める必要がある。高学年では、今後も災害図上訓練(DIG)を行うなど、知識面での学習も取り入れる。